

八戸公演

野村万作・萬齋・裕基

狂言三代

NOMURA
MANSAKU
MANSAI
YUUKI



撮影：政川慎治

2024.6/20^{THU} (木)

【開演】18:30 【開場】17:30

八戸市公会堂 中ホール

【番組】「解説」野村 萬齋・小舞「七つ子」野村 裕基
「蝸牛」野村 万作・「棒縛」野村 萬齋

【チケット】SS席 10,000円 S席 9,000円 A席 7,000円

※全席指定・税込 ※未就学児のご入場はご遠慮ください

※車椅子席をお求めの方はデーリー東北新聞社コミュニティー事業部までお問い合わせください

【プレイガイド】デーリー東北チケットセンター、八戸市公会堂、八戸ポータルミュージアムはっち、ラピア

主催：デーリー東北新聞社

共催：(株)アート&コミュニティ(八戸市公会堂指定管理者) 後援：八戸市、八戸市教育委員会
問い合わせ：デーリー東北新聞社コミュニティー事業部/平日午前10時～午後5時 TEL.0178(80)7299

野村万作・萬齋・裕基 ~狂言三代~



八戸公演 番組

二〇二四年六月二十日(木)
午後六時三十分開演
八戸市公会堂

解説 野村 萬齋

小舞 野村 裕基

七つ子 野村 裕基

地謡 中村 修一
岡 聡史

狂言 蝸牛

太郎冠者 野村 万作

主 高野 和憲

山伏 深田 博治

後見 内藤 連

— 休憩 十五分 —

狂言 棒縛

太郎冠者 野村 萬齋

主 飯田 豪

次郎冠者 中村 修一

後見 岡 聡史



あらすじ

蝸牛 かぎゅう

修行を終えて帰る途中の山伏が竹やぶで休んでいると、主人の命で、長寿の薬になるという蝸牛(かたつむり)を捕りに太郎冠者がやってくる。太郎冠者が山伏を蝸牛だと思い込み声をかけると、山伏は蝸牛になりすまして太郎冠者をからかう。さらに山伏は、囃子言葉に浮かれてなら同行しようと、太郎冠者にかたつむりの囃子言葉を教え…。

観ていると心も体もうきうきとしてくる楽しい作品です。「でんでんむしむし」という囃子言葉が何回も出てきますので、登場人物と一緒に浮かれてみてはいかがでしょうか。

棒縛 ぼうしぼり

二人の家来が、留守番中に酒蔵の酒を盗み飲んでいと知った主人は、太郎冠者を棒に、次郎冠者を後ろ手に縛って出かけてしまふ。それでも酒が飲みたい二人は知恵を絞り、縛られたまま酒を飲むことについて成功する。酔った二人が謡えや舞えやと大騒ぎしていると…。

自由の利かない手で酒蔵の戸を開けたり、舞を舞ったりと、遊び心に裏付けられた自由さがある作品です。観ているこちらも心楽しくなれる、狂言の代表作の一つです。



野村 万作 のむら まんさく

1931年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝、文化功労者、日本芸術院会員、2023年文化勲章受章。祖父・故初世野村萬齋及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章、中日文化賞、ジャパソナエティ賞等、多数の受賞歴を持つ。『月に憑かれたヒコ』『子午線の祀り』『秋江』『法螺待』『敦』山月記、名人伝』等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。近年では、「檀山節考」の再演に取り組み、大きな成果をあげている。



野村 萬齋 のむら まんさい

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござん座」乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演・舞台「敦」山月記、名人伝』『子午線の祀り』など古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとり。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞、千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞を受賞。石川県立音楽堂那業監督、東京芸術大学客員教授、(公社)全国文化施設協会会長。



石田 幸雄 いしだ ゆきお

1949年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重鎮。大曲の『三番叟』『釣狐』『花子』をすでに初演。国内外で狂言・能公演に多数参加、普及に貢献している。主宰していた「雙ノ会」で芸術祭大賞、個人で観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。大胆かつ緻密な演技で、古典はもとより新しい試みの舞台でも存在感を見せる。普及公演での的確な解説にも定評がある。



深田 博治 ふかた ひろはる

1967年生。野村万作に師事。国立能楽堂・能楽三役第四期研修修了。重要無形文化財総合指定保持者。万作一門の研鑽会「狂言ござん座」同人。すでに「奈須与市語」「三番叟」「釣狐」「花子」等を披き、「万作の会」の演者の一人として国内外の狂言・能公演に出演。朝日カルチャーセンターをはじめ、全国各地での狂言講座、ワークショップで講師を務め、狂言の普及に力を注いでいる。出身地・大分で「狂言やっとな会」を主宰している。八戸でも狂言を指導している。

